

JOMF 派遣医師便り (2016. 11)

◆シンガポール◆

シンガポールの医療制度～構成的特徴

シンガポール日本人会クリニック

日暮 浩実

シンガポールの医療制度

現在シンガポールには政府系の病院施設、専門施設は 26 ある。いわゆる急性期の患者をも扱うことを常とする大規模総合病院はそのうち 8 つである。シンガポールの全入院病床の 80%は政府系の病院が占める。また、外来患者の 80%は私立系のクリニックで扱っている。

シンガポールの医療制度の特徴を、利用者側の視点から端的に表現するとすれば<自己責任と身の丈にあったサービス>と書いていいように思う。

これを説明するために、まず、基礎となる医療制度の特徴をその構成的な面から述べ、次に施行的な特徴を説明してみたい。

今回の報告では構成的特徴について考えてみたい。

構成的特徴

構成的特徴として①家庭医、専門医制度、②病院はすべて株式会社、③私立病院業はホテル業、不動産業と似た点がある、の 3 点を挙げたい。

① 家庭医、専門医制度

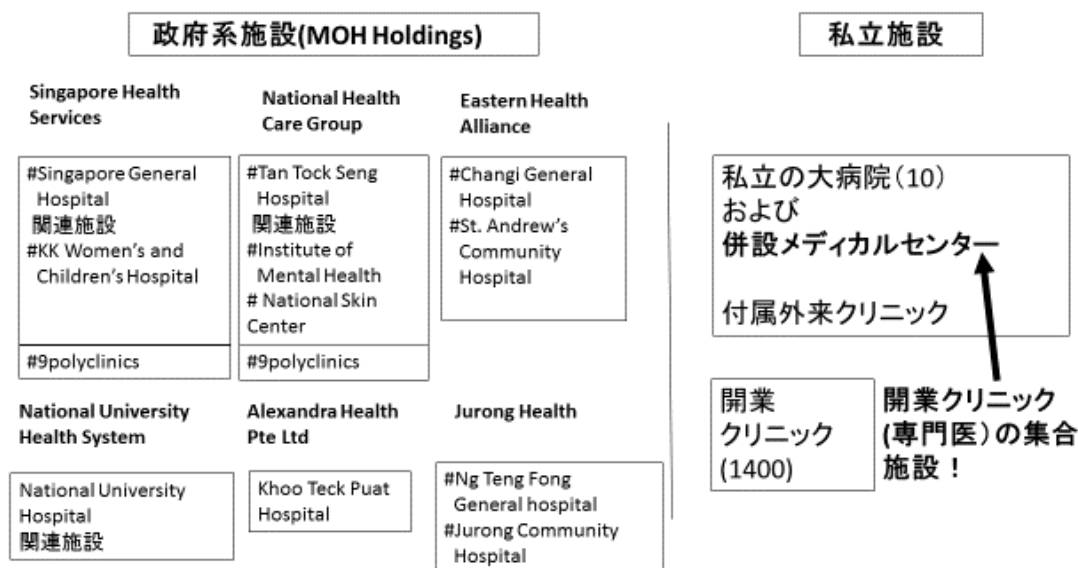
シンガポールで病気にかかったら、多くの場合、患者さんは自身で何科を受診すべきかを考える必要はなく、家庭医(Family Physician)または、一般医(General Practitioner)に相談すればよい。こうした医師は小児から高齢者まで、あらゆる患者さんのあらゆる問題に対応することが求められる。そのため、幅広い知識が要求され、責務は重い。もちろん、全ての分野において専門医と同等の医療技術や知識を有することはありえないので、必要に応じて適切な専門医を紹介するというよき仲介者としての役割も大切である。これを実現するためには医師側の不断の自己研鑽、努力が要求される。

② 病院は全て株式会社

シンガポールの病院は政府系施設と私立の施設の大きく二つに分けられる(図 1) 政府系施設は MOH Holdings という政府系の会社が親会社となり、傘下に病院群を従えている。傘下の病院群は、現在では 6 つのグループに分けられているが、これは、各地域ごとの中心病院という位置づけという目的の他に、競争原理を取り入れることにより、お互いのサービスの向上を図るといふ点が意図されている。このため、同じ政府系と言っても、外来

診療費や入院医療費は必ずしも同じではない。また、地域と言っても明確な線引きがされているわけではなく、誰でもどの病院にでも自由にアクセスできるのである。

(図1) シンガポールの医療施設の構成



私立の病院はもちろん全て株式会社である。しかも、その多くが外国資本である。医療費は政府系に比べ、高額となっている。M&A(註1)もしばしば行われている。

③ 私立病院はホテル業、不動産業(テナント貸し出し業)と似た点がある

シンガポールの病院は特に私立病院はホテル業、テナント貸し出し業と考えたほうが理解しやすい。病院には血液などの検査室の他に、画像検査施設、手術室、薬局、救急外来、入院病棟などがあり、一見、日本の病院と同じようだが、なんと内科とか外科といった科がないのである。もっと言えば、医師は病院には直接は雇われていないのである。だから科は存在しえないのである。医師がどこに在るかと言えば、病院の隣などに併設されたメディカルセンターにテナントとして入り、そこで開業しているのである。そして病院と契約することにより初めて、患者さんを入院させたり、手術室を使ったりする権利を得ることができるのである。

このため、入院などすると請求書の中身には、病院施設などの入院費用の他に、医師の診察料が別途入っている。

科ではないが、私立病院にも救急外来はある。が、もちろん、そこで働く医師は病院所属ではなく、アルバイトである。

私立系の病院にはメディカルセンターといういわば専門医の開業クリニックの集合体が併設されていると述べた。そこで開業している医師は、多くが、欧米に留学し、専門的教育を受け、さらに、政府系の大病院などで指導的立場にあった医師が開業したものであるため、

医師の中でもエリートの集団と考えるとよく、信頼性が高い。そのため、診療費は比較的高額となるが、経済的に余裕がある患者層は、これらの開業専門医を選択することが多い。この開業の専門医は、自身で開業しながら同時に、政府系の病院で Visiting Consultant 等として働いていることも多い。そして、シンガポールの医療界のそれぞれの分野で指導的な立場であり続ける。国内外の学会への参加（註 2）、各種講演会などでの発表を続けるなど精力的な活動を続ける医師も多い。こうした医師と契約することが私立病院側にとってもよき宣伝材料となるのである。

註 1 一つ例を示す。 当院のはす向かいにある私立病院はもともと精神科の専門病院だったが、2011 年にインド系の医療会社を買われて消化管疾患の専門病院になった。ところが、その施設は 2015 年にさらに別の医療会社を買われ、全ての癌を対象とする癌専門病院となった。

註 2 シンガポール人の医師は全て英語、中国語のバイリンガルであり、さらに多くの言語を話す者も多い。全ての医師がこうした能力を持っていることは医療ツーリズムを実現する上でも大きな強みとなっている。